

20年で大きく変化した田村の農業

農業就業者の高齢化、養蚕（畑）の減少、葉たばこは3分の1に

～第3回 大滝根川流域勉強会開催

1月18日（金）13時30分から、第3回大滝根川流域勉強会が、三春ダム管理所会議室にて開催されました。勉強会では、福島県田村地方農業改良普及センター所長の枝並洋一氏を迎えて、田村地方の農業の現況と将来についての講話をいただきました。またフリーの討論では、農業の現況について活発な発言があり勉強会が盛り上がりしました。



←枝並洋一氏の講話

田村地方の農業の現況及び将来についての資料を頂き、分かりやすく講話を進めていただきました。

もっと身近に、流域の農業を考えよう



フリー討論の様子→

参加者が、多くの意見や考えを発言し、農業についての意見が交わされました。

勉強会は、回を増すごとに参加者が増えております。堅苦しいものではありませんので、大滝根川流域で生活している皆さんの参加をお待ちしております。



1月のダム見学



←資料館2階では、東北地方の代表的なダムのデータベースも検索出来ます。

1月16日（水） 三春町立岩江小学校 第4学年 36名と市川先生

1月17日（木） // 第4学年 36名と武藤先生 計74名

社会科の授業「きょう土をひらく」の学習のため、三春ダム周辺と資料館の見学に訪れました。

あいにくの天気の中でしたが、子供達は元気いっぱい、たくさんの質問をしてくれました。風邪ひかないでね ☺

TUF“ニュースの森”

『トンネル特集』の取材をうけて



1月17日（木）、TUF（テレビ-福島）の中野アナウンサーがダムトンネルの取材にやってきました。トンネルとはちょっと違うのですが・・・と、監査廊の中を半日かけて案内しました。

1月21日（月）の放送をみますと、約2分間とあっという間だったのですが、内容はテロップや解説を使い、半日の取材が上手くまとめられていました。プロってすごいと思いました。

『人生は自分が作る物語』

～癒しと励ましの講話

三春町新春講演会が1月27日（日）、三春町公民館で行われました。講師には町内在住の芥川賞受賞作家、玄術宗久氏が招かれ「生を転ずる」という演題で講演が行われました。玄術さんは今まさに“時の人”の芥川賞作家であり、福聚寺副住職でもあります。

作品の小説は、生と死の狭間を書いた癒しの内容が多く、町内の馴染みの人々や身近な場所が舞台となっています。

講演の内容は、方向性を自ら決めてしまう様な西洋的な生き方は「不自由な心の物語」であり、これからは仏教的な「自由な心の物語」で生きていく事、つまり『転生』が必要であると語りました。

当日は管理所の職員数名を含む約250名と、多くの人が集まり、興味深く聴講しました。人生への癒しと励ましを受けた素晴らしい講演でありました。



森と湖に囲まれた小さなお店

三春ダム資料館1F「フォーレ」

皆さんは三春ダム資料館の1階にある「フォーレ」をご存じでしょうか？

forest (森) と lake (湖)

喫茶・軽食・お土産品がそろっている、年末年始以外は無休の小さなお店です。だから『フォーレ』→ おすすめはソフトクリームです。はっきり言って、ここのソフトはひと味違います。



大人気の
ソフトクリーム→



→三春に住む写真家、中村邦夫さんの
写真集『三春に生きる』と、海桜の桜はがき。

遠藤さん（左）と岸田さん（右）→
「焼きおにぎりやたこ焼きもあります。」



意外にかわいい？三春駒の耳かき→



櫛の香りの泥炭石けんは、
意外にさっぱりで
メイクも落とせます→



ちょっと変わった売れ筋商品は、“泥炭石けん”や“黒ごまきなこ”。
そば粉も売っています。わざわざ買いに来るお客さんがいるほどです。



→超定番の郷土玩具『三春駒』

今から1200年ほど前、坂上田村麻呂が東征に出発する際、湯水寺（京都）の僧・延福は、仏像建立の木切れで百体の木馬を彫り持たせました。そして大黒丸との戦いで苦戦していると、その木馬が駿馬となって現れ、坂上田村麻呂を助けたといわれています。その伝説から三春駒が生まれたといわれています。

毎年桜の季節には、三春の物産展を開催します。お近くまでいらした際には、ぜひお立ち寄り下さい。

（※岸田さんは1月26日（土）で退職されました。）

静まりかえった冬の森とはうらはらに、渡り鳥の訪れるさくら湖の湖面は大変賑やかです。そこで、毎年夏に開催される『さくら湖自然教室』や、自然観察ステーション主催の観察会でも講師をしていただいている、日本野鳥の会郡山支部の本田忠治さんにお話を伺いました。

日本野鳥の会はどんな方々がどんな活動をしているのですか？

郡山支部には現在、300人の会員がいます。年齢は10代から70代を超える方まで様々です。公民館主催の探鳥会や「さくら湖自然教室」のようなイベントなどのインストラクターの他、湖沼や河川、野山に住む野鳥の生息環境モニタリング調査を行っています。



学生時代から愛用されている本と、1冊80巻1巻400枚です。

三春ダムが出来た事で、野鳥に変化はあったのでしょうか？

郡山から三春に移り住んで45年になりますが、カワウやヒバリやトビなど、昔は見かける事の無かった鳥が増えました。ダムが出来て私達の生活は変わりましたが、鳥達も同じように環境が変わり、それに適応した種類が増えたのでしょうかね。

さくら湖にはどんな野鳥がいるのですか？

オシドリやトモエガモ、ミコアイサなどの冬鳥の他、ハクセキレイやベニマシコ、シギ、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウなど、30種類位は目にすることが出来ます。

動物や工機類もある本並にお店して、素材やメンテナンスの食事食べ



シウロビタキとヒヨドリが撮れまじり

野鳥に興味を持ったきっかけを教えてください。

野鳥に限らず、昆虫や植物が好きなお子でした。木登りをしてムクドリやフクロウの卵を発見したりしていました。担任の先生が理科の先生だった影響も大きいと思います。その先生が飼っていた子ゴモズの世話をしていたんです。

もっと自然に興味を持とう！



←三春ダムで探鳥見かけた！という「ガビチョウ」、ご自分でそっくりなペイントしたものです。左はアメリカで買って来た鳥の本。

名前 本田 忠治 出身 福島県郡山市

一言 鳥・植物・昆虫など、もっと自然に興味を持って欲しいです。身近なところに意外な発見があるかもしれません。2月10日(日)の探鳥会にもぜひ参加してみてください。若い仲間集まれ！！

さくら湖周辺の石碑

三春ダムと日時計

この日時計は、三春ダムの施工を記念して、三春ダムとさくら湖が時の流れとともに、人々に益々平和と反映をもたらす架け橋となるようにとの願いをこめて作られました。



←船引堤の白御影石、黒御影石と中国産のさくら御影石が使われています。



←三春ダムの船引堤の黒御影石
←ここにありませ

日時計の生命ともいえる親柱の設置にかなり苦労したようです

「事前に時下年表により南中高度を調べ、磁石や分度器を用いて微調整しながら位置を決定しました。

初めての経験だったため、本を調べたり、経験者に問い合わせたり、現在の最新測量法(座標による即位法)など、応用出来るものを最大限利用して施工しました。」

(当時の施工担当者)

